

3. たんの吸引(気管カニューレ内部)

気管カニューレ内部からのたんの吸引です。

準備

- 実施前に流水と石けんによる手洗いを済ませておく。
- 個別マニュアルと保護者の連絡帳を確認する。
- 本人に体調を聞く(観察する)。
- 気管カニューレに人工鼻が付いている場合、はずしておく。

・留意事項・

- ・外から細菌を持ち込まない。
- ・実施者が咳嗽や鼻汁等の症状がある場合は、マスクをつける。



ここまでは、ケアの前に済ませておきます。

準備として、
実施前に流水と石けんによる手洗いを済ませておく。

次に、個別マニュアルと保護者からの連絡帳を確認する。

そして、本人に体調を聞きます。同時に、本人の状態を観察します。

気管カニューレに人工鼻が付いている場合、はずしておきます。

(人工鼻をはずす時にカニューレを引っ張らないように、カニューレの固定翼などをおさえ
ておきながらはずします。)

外から細菌を持ち込まない。
実施者が咳嗽や鼻汁等の症状がある場合は、マスクをつける。
などに留意しましょう。

――ここまでは、ケアの前に済ませておきます

手順①: 本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、本人の意思、状態を確認する。
吸引の環境、本人の姿勢を整える。
気管カニューレの周囲、固定状態およびたんの貯留を示す呼吸音の有無を観察する。

• 留意事項

- ・必要性のある時だけ行っているか。
- ・効果的にたんを吸引できる体位か。
- ・気管カニューレ周囲の状態(たんの吹き出し、皮膚の発赤等)、固定のゆるみ、たんの貯留を示す呼吸音の有無などのチェックをしたか。

手順①

本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、本人の意思、状態を確認します。
また、吸引の環境、本人の姿勢を整え、気管カニューレの周囲、固定状態およびたんの貯留を示す呼吸音の有無を観察しましょう。

その際には、

- ・必要性のある時だけ行っているか。
- ・効果的にたんを吸引できる体位か。
- ・気管カニューレ周囲の状態(たんの吹き出し、皮膚の発赤等)、固定のゆるみ、たんの貯留を示す呼吸音の有無などのチェックをしたか。

などに留意します。

手順②:両手を洗って、利き手に滅菌手袋をする。またはセツシを持つ。

- 留意事項
 - ・本人の体に接触した後、吸引前の手洗いを行っているか。

手順③:吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。

- 留意事項
 - ・個別マニュアルに沿った吸引カテーテル保持方法を守っているか。
 - ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
 - ・カテーテルの先端をあちこちにぶつけていないか。

手順②

両手を洗って、利き手に滅菌手袋をします。または、セツシを持ちます。
本人の体に接触した後、吸引前の手洗いを行っているか、などに留意します。

本テキストでは、「利き手に滅菌手袋をする。またはセツシを持つ。」こととしていますが、厚生労働省作成テキストでは、「流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性擦式消毒剤で手洗いする。必要に応じ未滅菌手袋をする。場合によってはセツシを持つ。」と示されています。気管切開部からの吸引は口・鼻腔吸引よりもしっかりした清潔操作(無菌的操作)が必要です。セツシを持つことが難しい場合は、滅菌手袋の使用が望ましいと言えます。

手順③

吸引カテーテルを不潔にならないように取り出します。

その際には、

- ・個別マニュアルに沿った吸引カテーテル保持方法を守っているか。
- ・衛生的に、器具の取扱いができているか。
- ・カテーテルの先端をあちこちにぶつけていないか。

を確認しましょう。

手順④: 吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。

- 留意事項
・衛生的に操作できているか。

手順⑤: 吸引器のスイッチを入れる。



- 留意事項
・先端から約10cmのところを手袋をした手(またはセッション)で持つ。

手順④

吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげます。
衛生的に操作できているかに注意しましょう。

手順⑤

吸引器のスイッチを入れます。

吸引カテーテルの先端から約10cmのところを滅菌手袋をした手で持っても良いし、清潔なセッションで持っても良い。

手順⑥: (薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルの周囲、内腔の消毒液を取り除くため、洗浄水(精製水又は水道水)を吸引し、周囲も洗う。
吸引カテーテル先端の水を良く切る。
単回使用の場合は、このステップは不要。

• 留意事項

- ・消毒液を十分に洗い流したか。
- ・吸引圧を確認しているか。(毎回は必要ない)
- ・カテーテルについた水滴をよくはらっているか。

手順⑦: 「吸引しますよ～」と声をかける。

• 留意事項

- ・本人に合図を送り、心の準備をしてもらっているか。
- ・必要に応じて親や看護師等の協力を得ながら行えているか。

手順⑥

(薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルの周囲、内腔の消毒液を取り除くため、洗浄水(精製水又は水道水)を吸引し、周囲も洗います。

吸引カテーテル先端の水を良くきりましょう。単回使用の場合は、このステップは不要です。

その際には、

- ・消毒液を十分に洗い流したか。
- ・吸引圧を確認しているか。(毎回は必要ない)
気管カニューレ内吸引は20～26キロパスカル(150mmHg～200mmHg)
- ・カテーテルについた水滴をよくはらっているか。

に留意しましょう。

手順⑦

「吸引しますよ～」と声をかけます。

- ・本人に合図を送り、心の準備をもらっているかが重要です。
- ・必要に応じて親や看護師等の協力を得ながら行っているかが重要です。

手順⑧: 手袋をつけた手(またはセッシ)で吸引カテーテルを気管カニューレ内(子どもごとに確認された長さ)に入れる。



• 留意事項

- ・吸引カテーテルの手ないしセッシでの持ち方は正しいか。
- ・どの時期で陰圧をかけるかどうかは、あらかじめ決めておく。
- ・吸引カテーテルは気管カニューレの先端を越えていないか(個別マニュアルに沿った長さの範囲であるか)。

手順⑨: 手で操作する場合、カテーテルを左右に回し、ゆっくり引き抜きながら、10秒以内で吸引をする。

• 留意事項

- ・吸引中、直後の本人の呼吸状態・顔色に気をつける。異常があった場合、家族や看護師等に即座に報告したか。
- ・陰圧をかけて吸引できているか。
- ・吸引の時間は適切か。

手順⑧

手袋をつけた手(またはセッシ)で吸引カテーテルを気管カニューレ内(子どもごとに確認された長さ)に入れます。

その際には、

- ・吸引カテーテルの手ないしセッシでの持ち方は正しいか。
- ・どの時期で陰圧をかけるかどうかは、あらかじめ決めておく。
- ・吸引カテーテルは気管カニューレの先端を越えていないか(個別マニュアルに沿った長さの範囲であるか)。

などに留意しましょう。

手順⑨

手で操作する場合、カテーテルを左右に回し、ゆっくり引き抜きながら、10秒以内で吸引をします。

その際には、

- ・吸引中、直後の本人の呼吸状態・顔色に気をつける。異常があった場合、家族や看護師等に即座に報告したか。
- ・陰圧をかけて吸引できているか。
- ・吸引の時間は適切か。

などに留意しましょう。

手順⑩: 使用済み吸引カテーテルの外側を先端に向かってアルコール綿で拭き取った後、気管カニューレ用吸引カテーテルの洗浄水(精製水又は水道水)を吸って内側を洗い流す。



• 留意事項

- ・吸引カテーテルを、アルコール綿で上から下まで一気にふき取っているか。
- ・吸引カテーテルの洗浄水(精製水又は水道水)で洗浄しているか。
- ・洗浄水や消毒液を吸いすぎていないか。
- ・カテーテルに分泌物が残っていないか。

手順⑩

使用済み吸引カテーテルの外側を先端に向かってアルコール綿で拭き取った後、吸引カテーテルの洗浄水(精製水又は水道水)を吸って内側を洗い流します。

その際には、

- ・吸引カテーテルを、アルコール綿で上から下まで一気にふき取っているか。
- ・吸引カテーテルの洗浄水で洗浄しているか。
- ・洗浄水や消毒液を吸いすぎていないか。
- ・カテーテルに分泌物が残っていないか。

などを確認しましょう。

手順⑪: 消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。

手順⑫: 吸引器のスイッチを切る。(吸引終了)

• 留意事項

・吸引器の器械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消したい。

手順⑬: 吸引カテーテルを連結管から外し、破棄する。
(薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを連結管からはずし、消毒液の入った保存容器にもどす。

手順⑭: 手袋をはずす(手袋着用の場合)またはセッションをもとに戻す。
手洗いをする。

手順⑪

消毒液を吸引カテーテル内に吸引します。

手順⑫

吸引器のスイッチを切って、吸引終了です。

吸引器の器械音は、吸引が終わったらできるだけ早く消すようにしましょう。

手順⑬

吸引カテーテルを連結管からはずし、破棄する。

(薬液浸漬法の場合)吸引カテーテルを連結管からはずし、消毒液の入った保存容器にもどします。

手順⑭

手袋をはずす(手袋着用の場合)またはセッションをもとに戻し、手洗いをします。

手順⑮: 本人に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認する。
本人の顔色、呼吸状態等を観察する。
吸引した物の量、性状等について、ふり返し確認する。

• 留意事項

- ・本人の意思を確認しているか。たんが取れ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。
- ・頑張りを認めた声かけをしているか。
- ・痛みをあたえず、吸引できたか。
- ・吸引したたんの量・色・性状を見て、異常はないか確認しているか。(異常があった場合、家族や看護師等、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)
- ・サイドチューブ付き気管カニューレの場合、サイドチューブからも吸引する。(吸引器の接続管とサイドチューブをつなぐ)

手順⑮

本人に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認します。

本人の顔色、呼吸状態等を観察する。

また、吸引した物の量、性状等について、ふり返し確認をします。

その際には、

- ・本人の意思を確認しているか。たんがとれ切れていない場合はもう一回繰り返すかを聞いているか。
- ・頑張りを認めた声かけをしているか。
- ・痛みをあたえず、吸引できたか。
- ・吸引したたんの量・色・性状を見て、異常はないか確認しているか。(異常があった場合、家族や看護師等、医師に報告したか。感染の早期発見につながる。)
- ・サイドチューブ付き気管カニューレの場合、サイドチューブからも吸引する。
(吸引器の接続管とサイドチューブをつなぐ)

などに留意しましょう。

手順⑯: 吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。

- 留意事項
 - ・手早く片付けているか。
 - ・吸引びんの汚物は適宜捨てる。

手順⑰: 洗浄水は毎回取り換える。また、保存容器の消毒液は残りが少なければ取り換える。

- 留意事項
 - ・洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、ビンごと取り換える。

手順⑱: 評価票に記録する。ヒヤリハットがあれば報告する。

- 留意事項
 - ・記録し、ヒヤリハットがあれば報告したか。(ヒヤリハットは業務の後に記録する)

手順⑯からは片付けを行います。

吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てましょう。

その際には、

- ・手早く片付け、
- ・吸引びんの汚物は適宜捨てます。

手順⑰

洗浄水は毎回取り換えます。また、保存容器の消毒液は残りが少なければ取り換えます。
洗浄水や消毒液は継ぎ足さず、ビンごと取り換えましょう。

手順⑱

評価票に記録し、ヒヤリハットがあれば報告します。

ヒヤリハットは業務の後に記録します。